

# 「埼玉県の高校図書館司書が 選んだイチオシ本」8年の軌跡

県立松山高校司書 小川 智子

## 『かがみの孤城』をイチオシ！

2018年4月、全国の書店員が選ぶ「本屋大賞」に、辻村深月さんの『かがみの孤城』（ポプラ社）が選ばれた。学校に行けなくなった女子中学生を主人公に、その心の動きを繊細に描き、ファンタジーやミス터리要素も盛り込んで大きな感動を与えてくれるこの本は、色々なメディアで取り上げられたのでご存知の方も多いと思う。しかし、『かがみの孤城』が受賞したのは「本屋大賞」だけではない。埼玉県内の団体が作っているある賞の第1位にも輝いているのだ。その賞の名は「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017」（通称「イチオシ本」）だ。この企画に関わってきた者として、その活動の内容を報告したい。

## 「イチオシ本」とは？

では、「イチオシ本」とは一体何なのか？これを端的に紹介する言葉が、「イチオシ本」を毎年発表している「埼玉県高校図書館フェスティバル」のホームページに登場する。長くなるがここから引用する。

「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチ

オシ本」は2010年から始まり、今年で8回目を迎えました。埼玉の県立高校図書館には学校司書が専任・専門・正規の恵まれた形で配置され、高校生に魅力的な本を紹介するために日々図書館活動を行っています。この企画は、10年ほど続いた採用試験の中断に危機感を抱いた司書達が、何かできることはないかと始めたものです。

2012年に採用試験が無事再開され、たくさん若い司書達が活躍するようになった今でも、学校司書の仕事や高校図書館の楽しさをまだまだ伝えたい！との思いから、この企画を続けています。2017年のイチオシ本は、2016年11月から2017年10月に出版された本の中で、埼玉の高校司書103名が高校生にすすめたい！と思った本に投票して決定しました。

「イチオシ本」は、いわば高校図書館の現場の司書が毎日接している生徒たちに「読んでほしい！」と選んだ第1位というわけだ。本屋大賞の2か月以上も前に選んでいるのはちょっとすごいでしょう？と言いたくなる。イチオシ本の発表に伴い独自のパンフも作成していて、ベストテンの結果を掲載している。（図①パンフとPOP、

表紙、図②内側A3面)

## 「イチオシ本」が生まれるまで

実はこの「イチオシ本」、県内の高校図書館司書10名ほどが手弁当で企画運営しているイベントなのだ。なぜこのようなことを始めたのか、それには学校図書館の厳しい現状と学校司書の切実な思いがあった。



図①

話が長くなってしまいうけれど、お付き合いいただきたい。

学校司書制度の状況を端的に表すのが、自治体が行う学校司書の採用試験の有無だ。埼玉県では1970年代半ばから実施され、正規の司書が配置されてきた。埼玉以外の県では、学校事務職員の一時的な配置やパート職員、民間の業務委託などで、司書資格が必要な専門の職員制度がない自



図②

治体のほうが多い。司書教諭として任命された教諭が授業やクラス担任をしながら図書館を任されているところもある。人員削減により、高校ではその傾向が年々強まっている。そうすると、図書館は単に本を借りるだけ、自習をするだけの場所になり、授業での図書館利用、幅広い本の紹介や個別の読書相談、他校や公共図書館との連携などが学校図書館の役割だと認識されにくくなるのではないか。

しかし2000年代に入ると埼玉県でも採用試験が中断され、私たちは「法的根拠のない学校司書制度はなくなってしまわないか」と恐れ、何かしなければという思いにかられた。その思いをもとにする有志で実行委員会を発足させ、「埼玉県高校図書館フェスティバル」というイベントを実施した。2011年2月のことだ。

第1回「埼玉県高校図書館フェスティバル」は①学校図書館と司書の必要性を語るシンポジウム、②高校生の声「アイラブ図書館」を伝える展示、③「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」を主な内容として、さいたま市内で開催した。多くの高校司書が協力してくれ、当日の来場者も教諭や高校生、公共図書館司書のほか学校図書館に関心を持つ地域住民、司書志望の大学生など様々だった。その方たちから励

ましの声をいただき、採用試験復活まで頑張ろう！と意を強くした。同時に、出版社や書店の関係者からの反応もあり、異業種とつながる大切さも実感できた。この、学校図書館について情報発信することと学校図書館以外の機関や団体とつながることの2点が、この後の活動の基本になっていく。

2013年に実施された第3回「埼玉県高校図書館フェスティバル」では司書採用試験の復活といううれしい報告ができて、フェスティバルというイベント自体はいつたん幕を下ろしたが、イチオシ本の企画は現在に至るまで続いている。冒頭で触れた本屋大賞が文芸書、小説中心であるのに対

し、ジャンルを問わず募集し科学書や写真集、ノンフィクションなど多岐にわたる本が登場するのがイチオシ本の特色だ。これも、調べ物や進学就職の準備、ちょっとくつろぎたい時など様々な目的で図書館にやってくる高校生に、その生徒と対話しながらぴったりの本を一緒に探している司書ならではの選定だと思う。ちなみに、第1回（2010年）からこれまでの歴代1位は表①の通り。

## 募集から発表まで、そして「イチオシ本フェア」

イチオシ本2017発表までの動きはこんな風だ。まず10月初めに県内の高校司書に対し、イチオシ本募集の告知を行う。県内には150名を超える高校司書がいるが、そのうち100名以上の司書が投票してくれる。

11月末のメ切後に集計、イチオシ本のランキング決定後、12

月には著者や出版社に連絡を取りコメントをいただく。その後イチオシ本を紹介するパンフレットやPOPの作成、ホームページでの動画発表の準備など、年末から発表の2月まで、仕事の合間を縫っての実行委員・スタッフの多忙な日々が続く。同時に、パンフやPOPとともにイチオシ本を展示する「イチオシ本フェア」の実施を、高校図書館だけでなく県内の公共図書館・書店などに呼びかける。先ほど触れた「学校図書館以外の機関や団体とつながる」というのがこれにあたる。実施する書店・図書館にはパンフやPOPを無料配布する。毎年楽しみにして下さる書店やホームページを見てパンフ取り寄せを依頼して下さる図書館など、少しずつその数が増え、2010年は12店舗だったものが2018年2月からのイチオシ本フェアは書店54店舗、図書館83館で行われた（写真①）。

また、情報発信の場としてホームページを活用しているのも大きな特徴だ。事前の告知や司書の投票はもちろん、ランキング発表からフェアの情報まで載せる。発表動画はメンバーによる出演と撮影、1位の著者や編集者を招いてのインタビュー。投票に協力してくれた高校司書も参加しての公開収録である。準備段階からの動きをTwitterなどSNSで随時発信してい



写真①

表①

第1回 2010年	世界で一番美しい元素図鑑 セオドア・グレイ著 若林文高監修 ニック・マン写真 武井摩利訳 創元社
第2回 2011年	舟を編む 三浦しをん著 光文社
第3回 2012年	楽園のカンヴァス 原田マハ著 新潮社
第4回 2013年	島はぼくらと 辻村深月著 講談社
第5回 2014年	紙つなげ！ 彼らが本の紙を造っている —再生・日本製紙石巻工場 佐々涼子著 早川書房
第6回 2015年	君の臍臓をたべたい 住野よる著 双葉社
第7回 2016年	翻訳できない世界のことは エラ・フランシス・サンダース著 前田まゆみ訳 創元社
第8回 2017年	かがみの孤城 辻村深月著 ポプラ社

て、思わぬところからの反響もある。パンフの印刷やホームページの設営に際しては、関連企業の協力もいただいている。

このような情報発信と他の機関とのつながりの結果、2017年3月と2018年3月には桶川市の書店で本屋大賞や高校生直木賞とのコラボ企画も実施された。国内では高校図書館を知ってもらおうという動きがあちこちで生まれ、学校図書館への理解が少しずつ深まっているように思う。イチオシ本もその一端を担えているならうれし

い。

## これからのイチオシ本

今年で9回目を迎えるイチオシ本の企画。来年2019年の10回目を発表するのは2020年が明けてからになるが、2020年には特別なイベントを開こうと今から企画している。現在の実行委員会メンバーの半数以上は司書採用試験再開後に採用された若い司書たちだ。そのセンスや

インターネットを自然に活用できるスキルの高さ、行動力（そして体力！）には目を見張られる。また、投票の際に県内の高校司書から寄せられるコメントには、「自身の本への愛と同時に、「高校生に読んでほしい！」という熱い思いが感じられる。テーマに合わせた展示の際に生徒の反応が良かった本を挙げてくれる人もいて、各校の図書館での実践を垣間見ることができ。勤務校でのイチオシ本フェアの実施、パンフやPOPと引き換えにカンパをしてくれるなど、彼ら彼女らの協力がなければ、この企画自体が成立しない。もちろん、その背後には学校図書館を必要とし、ともに支えてくれている生徒や教職員がいることも忘れてはいけない。県内の研究組織である「埼玉県高校図書館研究会」には毎年後援をいただいています。

イチオシ本は埼玉の高校司書の力を外部に発信するものとして続いていた。第10回以後のことは未定だが、高校生と本と司書がいる（ある）限り、何らかの形で続いて行くものと思っている。

参考資料・『読みたい心に火をつけろ！』

木下通子著 岩波ジュニア新書  
埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会  
ホームページ：http://shell2011.net